

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎ 364-8442

あいさつは心のふれあい 出会った人と あいさつしましょう

霜月の大代

大代南 渡邊 巖

『降霜』も過ぎ、文字どおり『霜降り月』の到来です。

刈りながら、田の畔に棒掛け・束立て等をしておいた稲が乾燥すると、田から稲を揚げ『稲二オ』に積んで、

稲 扱 き

（以下はコンバインも何も無かった頃の『稲扱き』風景です）

男性は足踏脱穀機をゴーンゴーンと回して稲束を一把握つ扱き、女性は扱き落とされた籾を脱穀機の下から掻きだし、それを篩にかけてアオ（超特大の木槌）で打って籾を穂から離すのです。

此の作業を午後のタバコ頃まで続けある程度籾が溜まると扱き方を止めて籾吹きです。今度は男性が槍箱（大きな横長の箱）唐箕に籾を入れ、女性が唐箕を回して籾と藁屑などのゴミとを良く吹き分けるのです。

吹いた籾は籾摺りまで俵か吠（かま）に入れて置きます。

脱穀された稲藁は『藁二オ』に積んで置き、厩舎の敷藁（厩肥）や燃料等に使用しました。

出来秋の農家は大車輪で働きますがそのままでは身が持ちません。やはり適当な時期を見て休日があるのです。

お大師講

（おでえすこ）
四日・十四日・二十四日を三大師と

ご祝儀 お見舞いは 三千元を限度にし お返し物はしないようにお互い気を配りましょう

云い、この内どの日に祭るかはその家で違いますが、何れ行事のある日の夕食に餅を沢山搗き、井に十二個の小豆餅を盛り、遠くに居る子供達にも届くようにと二尺ほどの葦の箸を添えて神棚に供えました。

庭 払 い

八日
必ずこの日とは限りませんが、米の取り入れが全部終わった事を祝う行事です。米作りに使っていた庭を片づけるということからニワバレトよばれたのでしよう。勿論、この日にも餅を搗いて働き手の慰労をし、近所や縁者にも回し餅をします。

油 締 め

十五日
自家用の食油を菜種・ジウウネン（往胡麻）・椿の実などから採る為に、油屋に搾めて貰いに行く日で、朝に餅を搗いて休みにします。

又、鍛冶屋ではこの日を『ふいご祭り』として、仕事場の火をおこさず仕事休みにし、鍛冶屋の神である三宝荒神の祭りをします。

昨冬の『大代の詰め』から一年間、拙文を御幸抱頂き有難うございました。追伸

昔（昭和二十年以前）の大代の農家の一年間の主な行事を丹念に調査されて、月毎に当時の情景が映りだされておりました。

貴重な資料有難うございました。

【広報部】

貞山運河周辺清掃を終えて

去る十月九日（日）秋の貞山運河周辺の清掃を行いました

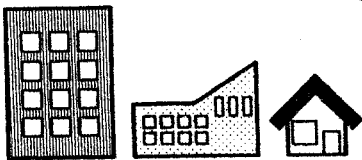
日曜日の早朝にもかかわらず八十名余りの方々の協力得て、貞山運河周辺から空缶や数多くのゴミ等が散見されましたが、きれいに片付けられました。地域環境美化の推進にご協力ありがとうございました。

一人一人がマナーを守り、これからは住みよい明るいまちづくりに取り組んで行きたいと思えます。

【環境美化部】

一人一人がマナーを守ろう

田をきれいに



平成十七年秋の

火災予防運動実施

■全国統一防火標語

「あなたです」

火のあるくらしの 見はり役」

■塩釜地区統一標語

「消したかな」

急ぐ時ほど もう一度」

■実施期間 平成十七年十一月九日（水）

から十一月十五日（火）まで

■重点目標

防火火災・連続放火火災予防

消火器の事故防止対策等

大代第六分団



消火器販売・液詰替えについて

◆日時 十七年十一月二十三日（水）

◆場所 大代緩衝緑地帯公園（東側P）

右記の要綱にて恒例の消火器の販売と液の交換を行います。

又、初期消火訓練と致しまして水

バケツ及び消火器の取り扱いを

実施したいと思えます皆様是非

加して見て下さい。

詳しいことは、チラシにてお

知らせ致します。

大代地区婦人防火クラブ

大代駐在所速報

また万引き犯人が検挙される



検挙の概要

平成十七年十月十三日、大代管内において、万引きをした高校生と成人(高齢者)を万引き(窃盗罪)で検挙しました。

【万引きは犯罪です】

現実には強盗や空き巣に比べて、万引きなんてたいしたことではない、と思ふ人が増えているようです。他人の財物(現金や物品)を盗むことは被害の大小に関係なく犯罪行為で処罰されます。万引きが見つかったとき、品物を返したりお金を払っても万引きで、犯罪の事実が消えないのです。

万引きは非行のはじまり



宮城県警 万引き防止3ない作戦

万引きは
●しない
●させない
●許さない

①引き②止
キャラクター

「万引きはドロボウだよ！」

「まんぼう」

法律ワンポイントチェック
刑法第235条(窃盗)
「他人の財物を窃取した者は、窃盗の罪とし、10年以下の懲役に処する。」

果てしない草原の想い(三十七)

大代南 後藤 清一

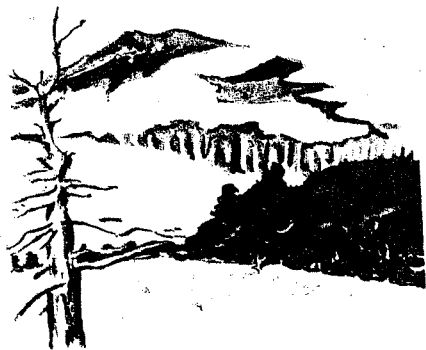
今年のシベリヤ墓参団は凶らずも大半が抑留の経験者であった。気心も理解し合い、年の差もそこそこで気安く墓参できた。私の墓参も年を重ね今回で五回を数え、其処への訪問は勝手知った私の菩提寺に行くような道に思えるようなものになった。又来たよと祈る暇には遠く過ぎし十年前の苛酷な状況がよみがえって参ります。毎年の事ながら彼等の土饅頭から退ち去る時、又来るからと約束し後髪を引かれる思いで淋しく帰るので。近隣の人達からは何故そんなにシベリヤに拘(こ)まるのだとよく云われるが、俺にはそれなりのわけがあるのだ。私の抑留中の作業は友の野辺送りが日課でした。他人の死は数えきれない程見してきた。あの野辺送りは辛く悲しく今でも眼に浮かびます。多くの友が今も収骨されず誰一人訪れる者もなく荒れた広野に苔むす崩れた盛り土を見る度に、悲しくふるさとの先祖が眠る墓に合祀して欲しい。一刻も早く家族の元へ帰して、その時こそ始めて安らかな眠りにつけるのではないだろうか。後何年位で収骨が無事完了するのか、あと十年、いや五年も経てば当時関わった人達、生き証人は居なくなるのだろうか。

速い手当を願うばかりです。死んでいった者、生きて還った者とは紙一重しかなかった。そんな死んでいった彼等を偲ぶとき、どうにか生還した俺達は、いまの日本のあり余る物資に振り廻され、飽食を求め、ただ有頂点に平和ボケに過ごす。それだけでいいのであろうか？

私も老体の域に入って久しい。体の衰えをかんじているが動ける限り、彼の地を訪ね一輪の花を手向け静かに眠れと祈りたい。さて今回もロシアの現地の方達にはあの悪路、背丈程のびた雑草湿地帯の中不平も云わず、笑顔で道案内、心から感謝申しあげたい。

今回の墓参で強く感動したのは国と国との間には国境があるが、個々の人々の心には国境はないと云う事であった。

どんな状況の中にあっても人間の真意は貫ける、通じ合えるものだと思じた。ともあれ現地ロシア住民の献身的なご協力にお礼を申し上げたい。



大代地区コミュニティ主催

グラウンドゴルフ大会について

◆日時 十七年十一月二十六日(土) 九時三十分集合

◆場 所 大代緩衝緑地帯公園

桜の木内(あずま家のある場所) 賞品及び参加賞を用意しておりますので、多数の参加をお願いします。

◆締め切り月日 十一月二十日

◆申込み 大代地区公民館

【体育部】

川柳

大代西 藤田 遊子

演説に八十三本「さくら」咲く 一億円もらって忘れる茗荷汁 地震より大増税が先に来る タナボタも多数決には貢献す

俳句

大代西 松浦 富男

己に妻在りし事ありそぞろ寒 虫すだく踏み行く先は鎮もりぬ 寂寥の墓の賑ひ後彼岸 老骨の関節軋む秋の風 彼岸花唐紅の黄泉路かな

笠神西 本郷 勝子

秋花火夜空の競演絶え間なく 潮風を身に受けつつきりたんぼ もみじ狩りバスに揺れて八合目 もみじ狩り山頂より観る青い湖 航跡を印して深き秋の湖